



1636年～1869年(約230年)

# 伊予西條藩を知る ⑦



(第一次西條藩)一柳家、(第二次西條藩)松平家

第4代藩主 松平頼邑 (在任期間 1738～1753年)

**第4代西條藩主 松平頼邑**(よりむら)は、3代藩主**松平頼渡**の長男で父の死去(33歳)により、元文3年(1738年)わずか7歳で跡を継いだ。父・松平頼渡は、享保大飢饉で発生した借入金(幕府より3,000両)を残したままで、元文3年に治世22年で松平頼邑が就任しました。幼少で病弱だった藩主・頼邑にかわって西条藩政を担当した藩御留守居役は、藩の多額の借入金の返済を急ぎ、通常の年貢のほかに、上納銀の御用銀の徴収を強要したため、農民の中には田畑の耕作を放棄する者もでて、家臣による腐敗した政治が要因となり政情が不安定で、寛保2年(1742年)には、紀州より合力米も1万俵減少し残り2万俵となり、藩財政は一層苦しくなった。そのため、延享2年(1745年)、御勘定奉行・**鷲見藤左衛門**(墓地:妙昌寺)を登用し、**儉約令**を發布するなどの藩政改革が行われたが焼け石に水であった。

西條藩が、この様なことをしていると知った宗家を継いでいる紀州藩6代藩主**徳川宗直**(元西條藩2代藩主**松平頼致**)は、飢饉でできた借入金と御用銀で徴収した分を返済して、藩の人心を一新し、従来の上納金を改め長期で返済する藩債にして、4代藩主頼邑(22歳)を隠居させて、宗直の次男 **松平頼淳**(よりあつ・25歳)に西條家の養子として相続させ、宝暦3年(1753年)7月29日に5代西條藩主にしました。

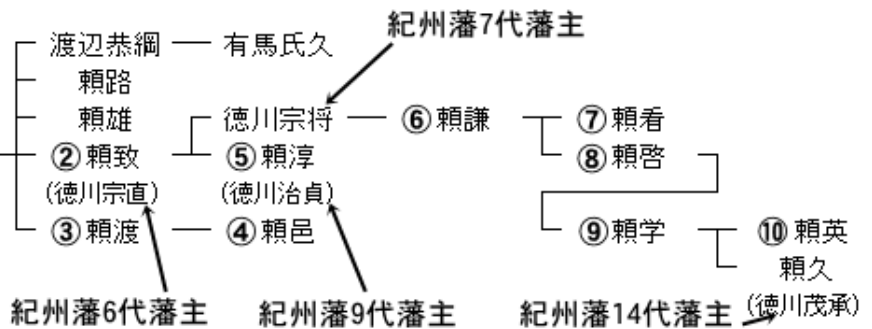
この5代西條藩主 松平頼淳 ものち、紀州藩(徳川御三家)を継いで紀州藩第9代藩主 **徳川治貞**(はるさだ)を名乗っている。徳川治貞は、名君の誉れ高い熊本藩8代藩主・細川重賢と並び「紀州の麒麟、肥後の鳳凰」と賞された名君で「紀麒麟」と呼ばれた。

松平頼邑公は、宝暦元年(1751年)に西条祭りの屋台総代につき「祭事中は身分に関わらず袴の着用や小脇差を挿すことを申し出により許可する」という触書を出すなど、地域一体となった祭事として親しまれ、現代に受け継がれている。(松平頼邑公、享年50歳)。

## 西条松平氏略系図

(紀州徳川分家)

徳川頼宣 — ① 頼純



参考資料:

西條市誌(西條市)、西條人物列伝(西條郷土史研究会)、池畔の柳影(愛媛新聞社)、  
愛媛県生涯学習センター「えひめの記憶」、加茂公民館だより、西条市生活文化誌(西条市)